

## 保育所(園)耐震診断結果一覧

平成22年8月

保育所(園)は、幼い子ども達が一日の大半を過ごす場であり、施設の安全性を確保することが必要です。旧耐震基準(昭和56年以前)により建設された施設の耐震性能を把握することが必要なため、保育所(園)の耐震診断を実施しました。

### 【公立】

施設名	建物名称	構造等	診断方法	耐震化状況 ( $I_s$ 値)
中央保育所	園舎	RC造2階建	二次診断	耐震性あり
神津保育所	園舎	RC造2階建	一次診断	耐震性あり
桜台保育所	園舎	RC造2階建	二次診断	耐震性あり
こばと保育所	園舎	RC造2階建	二次診断	耐震性あり
ひかり保育園	園舎	RC造2階建	二次診断	耐震性あり
荻野保育所	園舎	RC造3階建	二次診断	0.38

### 【私立】

施設名	建物名称	構造等	診断方法	耐震化状況 ( $I_s$ 値)
伊丹保育所	園舎	RC造2階建	一次診断	耐震性あり
有岡乳児保育所	園舎	RC造3階建	二次診断	0.36
伊丹ベビー保育園	園舎	S造2階建	三次診断	0.39
かおり保育園	園舎	S造2階建	三次診断	0.37
伊丹ひまわり保育園	園舎	S造2階建	三次診断	0.46

#### 構造

RC造は鉄筋コンクリート造、S造は鉄骨造の建物を表します。

#### 診断方法

耐震診断は、旧耐震基準(昭和56年以前)で建築された建物について、地震に対する安全性を構造力学上診断するものです。

- ・一次診断は比較的壁の多い低層の建物に適した診断法です。
- ・二、三次診断は建物の耐震性能を詳細に診断するものです。

#### $I_s$ 値とは

地震力に対する建物の強度や粘り強さなど耐震性能を表す指標で、耐震改修促進法で $I_s$ 値0.6以上の安全性は「地震の震動及び衝撃に対し倒壊し、又は破壊する危険性が低い」と評価されています。

#### $I_s$ 値の目安

- ・0.3未満 大規模な地震の震動及び衝撃に対して倒壊又は崩壊する危険性が高い
- ・0.3以上0.6未満 大規模な地震の震動及び衝撃に対して倒壊又は崩壊する危険性がある
- ・0.6以上 大規模な地震の震動及び衝撃に対して倒壊又は崩壊する危険性が低い  
(大規模な地震とは、震度6強から震度7程度の地震を想定しています。)

耐震診断の基準である「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準・同解説」建築防災協会編(2001年改訂版)による建築物の耐震性能判定において、第二次診断で $I_s$ 値0.6以上であれば、現行の建築基準法と同等の耐震性能があるとされています。また、耐震診断結果が第二次診断で $I_s$ 値0.6未満であれば、「構造体としての耐震性は『疑問有り』とされるが、これが直ちに構造体の崩壊・大破を意味するものではない。被害は、ある $I_s$ 値を境にそれよりも低い建物全てに確定的に生じるのではなく、 $I_s$ 値が低くなるに従って被害を受ける可能性が高くなり、被害程度の推定は現状では、これら被害状況のばらつきを考慮することが重要である」、これは「地盤や地震動が場所によって異なること、材料強度、強度・靱性の評価、施工のばらつきが考えられる」とされています。

以上のことから、「耐震性あり」と診断されなかった保育所(園)につきましては、低層建築物であり、条件的には中高層建築物より安全と言え、先の阪神・淡路大震災においても構造的な被害はなかったことから、直ちに耐震補強工事を行う必要はないと判断しています。しかしながら、子ども達の安全・安心を確保することは最重点課題であるため、今後改修・補強について適切に検討してまいりますので、ご理解賜りますようお願い申し上げます。

他の保育所(園)は、新耐震基準で建設されたものです。